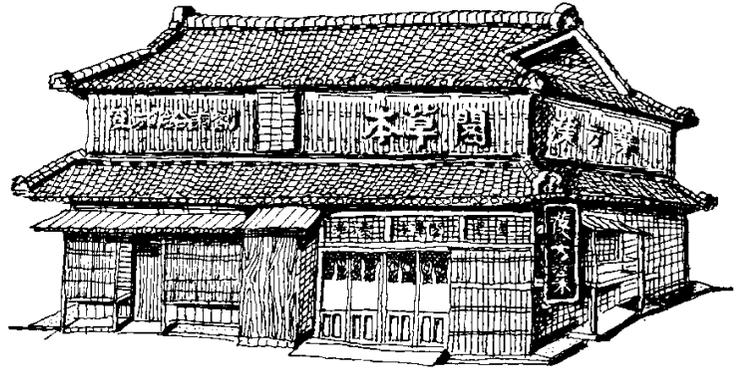


本草閣 かわら版

第64号

平成15年11月15日発行



漢方の本草閣 本店
〒460-0012
名古屋市中区千代田5-21-17
(JR 鶴舞駅西)
JR中央線・地下鉄 鶴舞駅下車
TEL 052-241-3388
FAX 052-241-3443

漢方の本草閣 緑店
〒458-0016
名古屋市緑区上旭1-622
(滝の水公園西)
名鉄バス滝の水口下車 徒歩約5分
TEL 052-899-0221
FAX 052-899-0236

<http://www.honsoukaku.co.jp/>
E-mail: kanpou@honsoukaku.co.jp

<http://www.honsoukaku.co.jp/>
E-mail: midori@honsoukaku.co.jp

帯下 (おりもの)

おりものを漢方では「帯下」(たいげ)と言い、生まれた時からあるもので思春期以後量が増えます。普通は乳白色をしていますますが量がいつもより多いとか色が変わると異常とみなされます。

代表的なものとしては、黄色を帯びたものは白帯下(気の不順が原因)、血液が混じり茶色っぽい、あるいは黒っぽいものを赤帯下(血の不順が原因)と言い、初潮時・出産時の冷え・精神的動揺・産後の不養生などから起こります。

おりものの異常は婦人病の第一段階です。

膣炎・子宮筋腫・子宮癌・子宮頸管炎・子宮腔部びらん・頸管ポリープ・など色々な病が考えられます。

量が増えたり・濃い色になったり・臭いが強かったり・痒みを伴ったりしたら婦人科に相談しながら漢方薬の併用をお勧め致します。

帯下の症状のみならず、生理の具合・冷え性・便秘・体格・性格・既往症・食欲・食事の好み・口渇・暑がり寒がり・・・等でお渡しする漢方薬が変わります。漢方薬に詳しい薬剤師にご相談下さい。

[文責 林 譽史朗]

民間薬よもやま話

第12回 南蛮毛（トウモロコシ）：イネ科

トウモロコシは南蛮黍、唐蜀黍、コーンなどと呼ばれ、世界中で食用、飼料とされています。薬用にはおもにトウモロコシの毛を使います。毛は南蛮毛といい、初めに使用したのはヨーロッパ人で16世紀ごろ新大陸発見により持ち込まれました。日本で薬用とされたのは江戸末期でオランダ医学が入ってきたときです。

採取時期は種実の収穫期に雌花の長いひげ状の花柱をむしりとり、日干しにし保存します。

薬効は利尿、腎機能の改善、むくみ、黄疸、胆のう炎、胆血石、糖尿病などです。しかも、すぐれた利尿作用、血圧降下、末梢血管拡張作用があり、連続して服用しても安全な利尿剤として、妊娠時のむくみにも用いられています。

飲み方は1日量10gに水400mlを加え、約半量になるまで煎じて、1日3回食前に分けて服用します。

また、腎臓病にはキササゲ、ニワトコと一緒に煎じて服用すると一層高い効果を期待できます。

お屠蘇の話

お屠蘇とは、酒やみりんで生薬を漬け込んだ薬用酒です。正式には屠蘇延命散と言います。中国の三国時代の名医「華蛇」が考案したという説が有力です。日本へは平安時代に伝わり、宮中の正月行事として始められ、江戸時代に一般に広まりました。

「屠蘇」の意味は、「屠」は「ほふる」、「蘇」は「病をもたらす鬼」という意味で鬼退治の意味です。または、「屠」は「邪気を払う」、「蘇」は「魂を目覚め蘇らせる」という意味があります。簡単に言うと、邪気を払い無病長寿を祈り、心身を改めようという、お正月の祝い酒です。

お屠蘇の作り方は、大晦日の夜、コップ一杯の酒に適量のみりんと屠蘇を一包浸しておいたものを、元旦の朝にいただきます。ほのかな香りとわずかな苦味が、新鮮な爽快感を感じさせてくれます。

また、お屠蘇を飲むときは年少者から年長者へと盃を順にすすめます。若者の精気を年長者に渡すという意味合いが込められています。

〔文責 山口 真広〕

漢方の本草閣 本店・緑店 年末年始お休みのお知らせ

平成15年12月28日（日）～平成16年1月4日（日）
まで年末年始のお休みとさせていただきます。